

10 章前半 Show & Tell からプレゼンテーションへ

1.指導の背景

(1) スピーチ活動の意義

自分の考えを伝える力（自己表現能力）を養うことが現在の日本の課題である。

また人前で自分を表現することは生きる力にも不可欠な要素であり、プレゼンテーション能力は社会に出たときに必要になってくる。

→中学校や高等学校の活動の中で自己表現力を養うことは大変意義のあること。

しかし、実際はあまり行われていないのではないか。

(2) スピーチなどの言語活動が行われない理由

①スピーチを授業で行おうとしてもそれにかかる時間が無い

- ・教科書の内容を終わらせなければならない
- ・スピーチの添削には時間がかかるため何度も継続して行うことができない

②スピーチなどの「話す」活動が評価の対象になっていない

- ・定期考査の範囲外
- ・評価の割合が他の三技能よりも低い
- ・評価が難しい
- ・「話す」ことが高等学校や大学入試試験に課されていない
(時間的な制約や公平性の維持などが難しいからと考えられる)

③生徒ができないと教師が思いこみ、スピーチ指導を諦めている

- ・簡単な英語を自由に話すことができない生徒が、スピーチのようなまとまった英語を話す活動をできるわけがないと思っている

しかし、生徒はだれもが自分の伝えたいことをもっている。短くてもそれを英語で伝える力を育てることが教師本来の役割なのではないか。

④スピーチを実践しようと思っても、そのやり方が分からない

- ・教科書の練習問題はあるが指導手順が詳細ではない
- ・どのようにすれば生徒に原稿を読ませずにスピーチをさせることができるのか分からない

(3) Show & Tell とプレゼンテーションの利点

マッピングを用いて行う Show & Tell とプレゼンテーション

学習の初期段階は Show & Tell を使う。

Show & Tell : 気に入った本など身近なものを使って、先生や友達の前で自分の気持ちを発表する短いスピーチ。

〈利点〉

- ①生徒自身が本当に伝えたいことを表現することができる
- ②話し手が「もの」を手を持つことにより、原稿を持ってなくなったり、原稿が読みづらくなり、結果的に聞き手の方を向いて話すことができる
- ③話し手が英語を話しながら「もの」を指で示したり、聞き手に見せようとしたりするなど、何らかの動作をすることにより、「話す」と身体動きを一体化させて、スピーキングを自然なものにする

Show & Tell を通して生徒が人前で英語を話すことに慣れてきたらプレゼンテーションを行う。

〈利点〉

上の三つに加えて

- ④グループになって一緒に学習することにより学習効果が高まる
- ⑤他教科の学習内容を取り込むことにより知の総合化を行うことができる

2.指導の実際

(1) Show & Tell (1人1分が目安)

ア) テーマを設定する

イ) 内容を考える

ウ) 内容を整理する

マッピングを用いて内容を整理させる。

エ) 原稿を書く

オ) 練習する

ポイント

- ・英文を何度も声に出して練習する
英文から目を離して顔をあげて英語を口に出す read and lookup を指導する。
- ・英語を口に出すときには英語の意味を意識する
- ・「もの」を効果的に見せる工夫をする

感想・考察

本章にもあったがスピーキングがあまり学校で行われていないのが今日の英語教育の現状である。そもそもこれらの方法を取り入れようとなるといつ取り入れればいいのかということが問題となって来るのではないだろうか。スピーキングは何度も繰り返して行わなければ力につかない。教科書をきちんと終わらせつつこれを取り入れるには教師の力量がとても大切になるだろう。